

4	
主題	ご利用者の生活記録を手書きから パソコン入力に完全移行したことによる 直接サービス向上への取り組み
副題	ご利用者とたくさん話そう。

キーワード 1	記録のIT化	キーワード 2	パソコン操作に慣れるには。	研究(実践)期間	10ヵ月
------------	--------	------------	---------------	----------	------

法人名・事業所名	社会福祉法人 三育ライフ 特別養護老人ホーム シャローム東久留米
発表者(職種)	村上謙太郎(生活介護課職員)
共同研究(実践)者	保谷邦彦(生活介護課職員)

電話	042-467-1561	FAX	042-467-3040
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	<p>シャローム東久留米は、入所者82名、ショートステイ10名、計92名の方が利用される特別養護老人ホームである。また、平均要介護は4.2、平均年齢は、84.5歳である。</p> <p style="text-align: right;">平成29年8月時点</p>
-------	---

<p>《1. 研究前(実践)の状況と課題》</p> <p>○生活介護課では前年まで、日中帯、夜間帯の職員が「介護日誌」とご利用者1人1人の毎日の様子を記入する「生活記録」を手書きで残していた。「介護日誌」と「生活記録」で重複した内容を記入し、時には「状況報告書」や「事故報告書」が出れば3回以上同じことを記入することもあった。また手書きで不便な点として、管理する書類の多さや誤字脱字の修正の手間、職員1人1人が記入する文字の違いなどがあげられる。</p> <p>PC入力化で、重複している手書きの作業の削減と軽減をはかり、ご利用者へのサービス向上と職員の残業時間の削減が可能であることと情報の共有化と書類整理の簡素化を目指す。施設の方針のためパソコン入力への施設全体で環境整備が可能だったため、平成28年の6月からご利用者の「生活記録」のパソコン入力完全移行の準備を開始した。</p> <p>○パソコン入力導入前、介護記録システムはあったが食事量&水分チェックのある方の飲水量・排泄回数・入浴の有無・各ご利用者の計画サービスの実施のチェックと数値のみシステムを活用していた。</p> <p>＜パソコン入力に完全移行する前への準備＞</p> <p>パソコン入力に対して苦手・恐怖心を持っている職員へのマニュアル書作成を準備。そして、ご利用者の見守りをいながらの入力をする為に各フロアに無線LANの導入とパソコンの増数を目指す。</p>
--

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

ご利用者へのサービスの時間の確保のために記録のIT化を目指す。

《3. 具体的な取り組みの内容》

〈手書きからパソコン入力へ完全移行の取り組み〉

平成28年6月にプロジェクトチーム結成する。同年7月にパソコンに足して苦手・恐怖心を持つ職員に向けたマニュアルの作成及び入力の指導を開始。8月に施設全体に無線LANを導入し、9月には各フロアにノートパソコン1台以上増数。10月より「生活記録」を手書きと並行し、パソコン入力を開始。11月から「介護日誌」をパソコン入力に完全移行し12月で「生活記録」をパソコン入力に完全移行する。平成29年2月に研究発表の準備として、手書きからパソコン入力での職員へのアンケートを実施する。6月に第2回、9月に第3回のアンケート調査を実施した。

《4. 取り組みの結果》

パソコン入力完全移行となり「生活記録」と「介護日誌」を作成するうえで、「生活記録」で重要な点がある場合、その項目にチェックを入れるだけで「介護日誌」のページに落とせるため同じ内容を入力することが無くなり記録作成の時間短縮となった。

各フロアにノートパソコンが1台以上増数され食堂などでご利用者を見守りながらの入力や、そして入浴やショートステイの様子など一人の職員が把握しづらい内容を他の職員が入力することで、ご利用者の毎日の生活記録が内容の濃い記録にすることも出来るようになった。

《5. 考察、まとめ》

3回行ったアンケート調査の結果、記録作成の速度は速くなったが別の業務に追われてなかなかご利用者との時間がとれない職員もいるが、月日の経過で時間が取れるようになっている職員が増えている。また記録作成を手書きからパソコン入力に移行したことは多くの職員が良かったと答える結果となっており、解決すべきだった業務の残業時間も減っているとの回答だった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

アンケートの回答では手書きの方が良いと答え職員もいたが、現在はパソコンに触れることなく入力できる記録システムもあり、ご利用者の様子を持ち歩けるタブレット端末に直接に話しかけたり、付属のペンを使い書くことで生活記録として作成できるものなど、パソコンのキーボードを打つだけが手書き以外の記録作成のツールではなくなっている。

ここシャローム東久留米では生活記録作成に対し何が一番、働いている職員に適しているのか、そして、課題であるご利用者への、直接サービスの時間をどれだけ多くとれるのかを各フロアおよび課内会議で話し合いを継続して行っていきご利用者の笑顔を多く見ることのできる施設にしていきたい。